

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	学校の怪談
	ソラリス					
オプション			年齢			性別
覚醒	命令	衝動	飢餓		初期侵食率	29 %
出自	冬眠	経験	秘密		邂逅	借り

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	10
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	10
精神	2	0	2			4	戦闘移動	15
社会	3	0	0			3	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC	10		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
変異種<イレギュラー>	P	N			
鑽溪 琥珀	P 懐旧	N 不安			
藍園博士	P 懐旧	N 不安			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-						
効果: 衝動判定+LV個D								
オリジン:レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果: シーン【精神】判定達成値+[LV*2]								
アクティベート	3	4	マイナー	至近	自身	自動		
効果: HPを[LV×3]まで消費。その分達成値に+								
アシッドボール	1	2	メジャー	視界	-	対決		
効果: 攻撃力+lv。装甲値-5								
絶対の孤独	3	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 射撃。ラウンド中対象のあらゆる判定のダイス-[LV+1]個								
茨の輪	5	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 射撃。ラウンド中対象のあらゆる判定のダイス-LV個								
レーザーファン	1	3	メジャー			-		
効果: 範囲化。シナリオLV回								
スターダストレイン	1	6	メジャー			-		
効果: シーン化。シナリオ1回。ダメージ-[20-lv×5]								
オーバードーズ	2	4	メジャー			-	100%	
効果: 組み合わせたエフェクトのレベル+2。シナリオlv回								
アクセル	5	1	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: 行動値+ [LV×2]								
ラピッドファクトリー	1	3	セットアップ	至近	範囲(選択)	自動	アクセル	
効果: 組み合わせたエフェクトを範囲(選択)、至近にする。シナリオlv回								
ミスディレクション	1	5	オート	視界	単体	自動		
効果: 範囲(選択)が範囲の攻撃を、単体に変更する。対象は選びなおす。シナリオlv回。								
天使の外套	1							
効果:								

学園島には島に住む者ならだれもが一度は聞いたことのある、七不思議、と呼ばれる7つの怪談がある。

1つ、音楽室のピアノは生きていて、夜な夜なレクイエムを奏でる。

2つ、学生寮には自殺した生徒の幽霊が住んでいて、仲間を求めている。

3つ、校舎のとある階段は特定の時間に上ると一段増えていて、上りきると二度と降りては来られない

:

:

7つ、7番目の怪談は、知ってはならない。

彼はそんな学園七不思議の、7番目の怪談が実体化したレネゲイドビーイングだ。

七不思議のうち、1〜6番目の怪談は、全てを言えない人も多く、人によっては順序や内容すら変わるが、この7番目だけは、誰もが同じ内容を口にする。

誰もが知る噂話でありながら、知ってはいけない、故に誰も知らない7番目。

その概念が学園島のレネゲイドウィルスと反応し、誰かであって誰でもない、7番目という概念を持った彼が生まれた。

故に彼は、確固たる自分を持たない。その姿は日々移ろい、青年にも少女にも、好々爺にも幼子にもなる。

その点は仕方がないと、ある種諦めをもって彼(あるいは彼女は)、受け入れている。

しかし、いやだからこそ、彼は求める。自分が生まれた理由を。不確かながらカタチを得た意義を。

